

ファナック株式会社
2020 年度 決算説明会(電話会議) 質疑応答要旨
(2021 年 4 月 27 日開催)

Q. CNC 装置が工作機械メーカーを経由して自動車メーカーのエンジン関係に使われる比率は、工作機械全体に対して大体どのくらいでしょうか？ FA の需要の強い戻りをどう理解したらよいでしょうか？

A. エンジン関係の比率は数字を持ち合わせていませんが、一般的に、広い意味での自動車関係向けが工作機械の需要の約半分だと言われていますので、我々もそのレベルではないかと考えています。需要は自動車関係もありますし、半導体関連、建機向け、ノートパソコンやタブレット向けなど、色々な用途に強い引き合いがあります。

Q. 受注は仮需もあるのでやはりピークアウトするのでしょうか？それとも比較的強いままでしょうか？特に中国とインドについてご見解を共有いただけないでしょうか？

A. 中国は非常に好調ですが、非常に急速に増えていて、受注が先行している可能性もありますので、このピークがずっと続くことは今の段階で想定しにくい状況です。ただ大幅に悪くなるような兆候は感じていませんので、比較的高い状況が続くのではないかと期待はしています。インドもコロナ禍がいずれ解消すれば、また回復軌道に戻ってくることを期待しています。

Q. IT 関係の一時的な需要は 4Q にはなく、今後もそれほど見込んでいないのでしょうか？

A. ロボドリルは、以前から申し上げている通り、パソコンやタブレット関係の引き合いがかなりありますが、先々が見通しにくいものです。ロボドリルについては、2021 年度 2Q の途中からは、今までのペースほど高くないだろうと想定しています。FA については、比較的堅調に続くものと想定していますが、4Q の受注水準が 2021 年上期以降も続くかという、そこまでは現時点で見通せないと判断して予想を立てています。

Q. 上海ファナックでロボットシステムのシステム構築のキャパシティを従来の数倍にするという報道がありました。ここまでコミットする理由を教えてくださいませんか？ファナックアメリカなど異なるアプローチ、戦略に見えますが、背景を教えてください。現地の SIer が育っていないのでしょうか？

A. 中国は非常に堅調に伸びてきていて、建物のキャパシティが不足する状況がすでにあります。今後も持続的な成長が予想されますので、より先を見て、大規模な土地に大きな建物を建てて、今でもナンバーワンですが、より確固たる地位にしていきたいと考えています。

他の国々に比べると、まだ相対的に SIer が少ないため、上海ファナックがシステムインテグレーションを行うケースもありますが、基本的な考え方は全世界で変わらず、ファナックはあくまで SIer をサポートして、Win-Win の関係を築いています。

Q. 国内で 1,000 億円規模の設備投資の山がまた来ると考えた方が良いでしょうか？ 設備投資・減価償却費・研究開発費の方向感はどうな風に見えていますでしょうか？

A. ロボット工場のキャパシティがいずれいっぱいになってくれば、また新しい工場を建設することになると思います。（ロボットに限らず）目下、非常に多くのご注文を頂いていますので、建物の中に入れる設備を増強していきます。2020 年度はコロナ禍があり、極端に絞りましたが、2021 年度以降は順次進めていくことになると思っています。減価償却費は、設備構築を進めていたものの使用開始していなかった設備を順次稼働させていますので、横ばい、ないしは少し増える方向かと思っています。研究開発費は開発促進のために厳選して進め、少し増える方向かと思っています。

Q. 壬生工場の固定費が過大で、利益率の低下要因になっていたと思いますが、このあたりはそろそろ解消に向かいそうなのか、能力、固定費、売上のバランスについては如何でしょうか？

A. 機種によっては生産能力が逼迫しているものもありますので、順次設備投資を進めています。FA の新規投資につきましては、本社地区の工場には空きエリアもない状況ですので、新しいラインについては壬生工場が中心になっていくと思います。

Q. FIELD system の導入事例など、進捗についてはいかがでしょうか？

A. ここ数年来開発、拡販に努めていますが、まだ個別の事業として開示できるレベルではありません。興味を持っていただいているお客様は非常に多くなっています。我々の一番得意である機械加工の分野に絞り込んで、拡販を進めています。

Q. 地域別受注の動向のフォローアップをお願いします。

A. 米州は多少減っていますが、3Q の受注が高かった反動ととらえていて、米州のマーケットは非常に好調だと思っています。日本国内はこれから徐々に上がることを期待しています。欧州も徐々に回復してきていて、この傾向は変わらないと思っています。中国は、FA・ロボット・ロボマシンとも非常に好調を保っているという状況です。インドも有望なマーケットであり特に FA の引合いが非常に高いです。韓国も FA を中心に非常に引合いが強い状況です。台湾の FA は中国向けなどが非常に好調です。ほぼすべてのマーケットで順調に回復してきています。

Q. 中国以外のマーケットで仮需懸念がありそうな地域はありますか？

A. 我々の商品の性格上、仮需は FA において中国以外でも台湾、韓国、インドで大なり小なり含まれると考えています。

Q. FA の仮需に関して、CNC 装置のリードタイムの変化や部品の不足について教えてください。

A. 受注が急速に増えましたので、納期は少し長くなってきています。納期が長くなると、さらに先々の注文が入り、実需と仮需の実態が見えにくくなります。世界中の製造業が急速に回復し、必要な部材等も非常にタイトになってきていて、調達面、出荷面で努力しています。

Q. 業績予想で下期の営業利益率が下がる理由は何でしょうか？

A. 下期の利益率減少は、物流費、出張費、展示会費等の経費増の部分もありますが、基本的に売上高の減少によるものです。

Q. ロボットとCNC装置について、シェアを拡大できているという理解であっていますか？シェア拡大のドライバーはどのようところでしょうか？

A. ロボットについては、信頼性の高さやサポートの良さを評価いただいていると思います。イニシャルコストだけでなくトータルコストで評価いただいていると思います。ヨーロッパでも自動車メーカーを中心に食い込んで、年々シェアが上がっている状況です。CNC装置についても、信頼性の高さに加え、全世界に260以上の拠点を擁して109ヶ国をカバーしていますので、サポートの面で評価いただいて、高いシェアを維持できていると思っています。サービスについても、FabriQRなど新しい取り組みをしていて、さらなる商品シェア拡大、サービスの収入増に取り組んでいます。

以上

本資料に含まれている将来に関する見通しには、市場における製品の需給動向、競合状況、経済情勢その他に不透明な面があり、実際と異なる可能性があることをご承知おき願います。